

# <特集>新しい学習指導要領に基づく学習評価の改善（中学校）

## 1 学習評価の基本的な考え方

### (1) 学習評価の意義

子供たちの学習評価の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要である。

<参考>平成28年12月21日 中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

### (2) 学習評価の改善の基本的な方向性

次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要である。

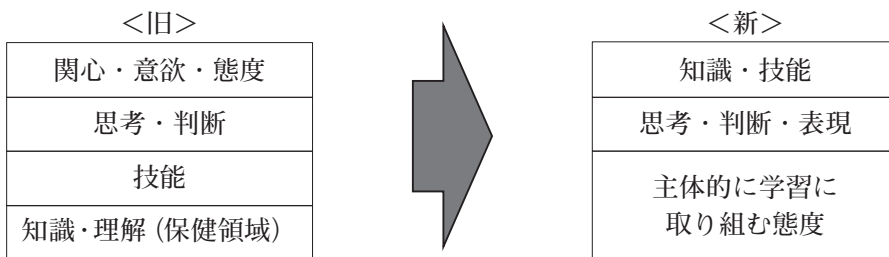
- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

<参考>平成31年3月29日付け30文科初第1845号「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

（以下 改善等通知）

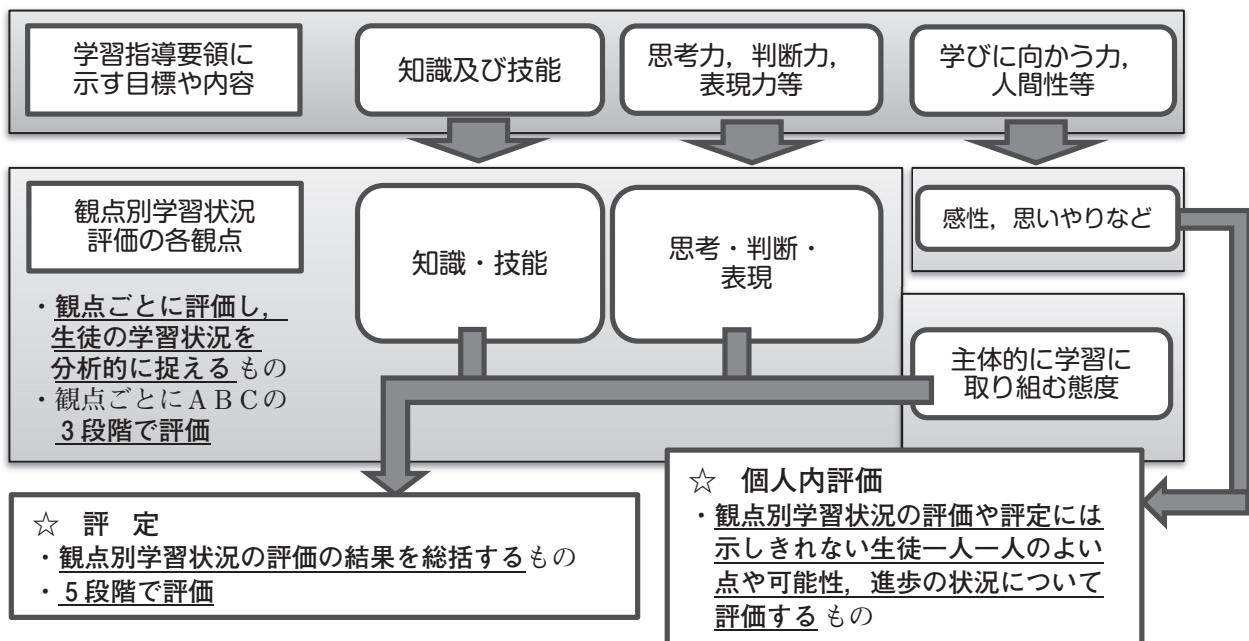
### (3) 観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理している。



<参考> 改善等通知

### (4) 評価の基本構造



## 2 保健体育科における学習評価の進め方

### (1) 体育分野

#### ① 「知識・技能」について

学習指導要領解説では、体育分野の「知識」について、「具体的な知識（体の動かし方や用具の操作方法など）」と「汎用的な知識（運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則など）」に分けて示されており、保健体育科では、知識に関する学習指導の更なる充実が求められている。

指導と評価に当たっては、「具体的な知識」と「汎用的な知識」を関連させて定着を図るとともに、運動の行い方や健康・安全の確保の仕方などの科学的知識を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることでその理解を一層深めたりするなど知識と技能を関連させて指導・評価していくことが大切である。

#### ② 「思考・判断・表現」について

学習指導要領解説では、「思考力、判断力」と「表現力」に分けて例示されていることに留意する。

思考力、判断力に重点を当てたもの（「～から、～を選ぶこと」など）

「伝える」までの一連の具体的な指導内容を示したもの（「～を参考に、～伝えること」など）

また、「課題解決の仕方」については、従前どおり「思考・判断・表現」で見取り、一人一人が自己の課題に合わせた練習方法や場を選んだり、活動を工夫したりしている状況の評価する。

なお、新たに追加された「表現」に重点をおいて指導・評価するものではないこと、また、人前で発表することのみが「表現」の評価ではないことに留意する。

#### ③ 「主体的に学習に取り組む態度」について

保健体育科では、豊かなスポーツライフを実現することを目指す観点から、従前より「態度」に関する内容が示されており、今回の改訂においても、体育分野の目標及び内容「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標と内容が（3）に示されている。

評価に当たっては、愛好的態度（進んで学習活動に取り組む）、公正・協力（約束を守り公正に行動する）、責任・参画（役割を果たそうとする）、共生（友達の考えや取組を認める）、健康・安全に関する態度（安全に気を配る）の評価規準をそれぞれ作成し、評価することが重要である。

また、「学びに向かう力、人間性等」の内容には、粘り強い取組を行おうとしている側面や自らの学習を調整しようとする側面が含まれていることに留意する。

### (2) 保健分野

#### ① 「知識・技能」について

保健分野の「知識・技能」の評価については、体育分野と異なり知識と技能を分けて考えるものではなく、相対的に評価することが重要である。

技能が追加された内容においては、技能を用いる実習や観察の場面を意図的に設け、理解したことが実際にできているかを評価することが必要である。

#### ② 「思考・判断・表現」について

学習指導要領解説の例示には、「課題を発見する段階」、「思考し判断する段階」、「他者に伝える段階」の3つの段階が示されており、指導内容を計画的に組み込んで評価することが重要である。

評価に当たっては、レポートの作成、発表、話し合い等の多様な活動を取り入れて指導し、評価することが重要である。

#### ③ 「主体的に学習に取り組む態度」について

保健分野については、「学びに向かう力、人間性等」に関する内容の記載がないことから、改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容を踏まえ、文末を変換するなどして評価規準を作成し、指導及び評価する。

### 3 保健体育科における指導と評価の計画の作成までの手順

#### 内容のまとめ

学習指導要領に示されている各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目等をそのまとめごとにより細分化したり整理したりしたもの。

【中学校保健体育科の内容のまとめ】 < >内は取り扱う学年

体育分野 〔第1学年及び第2学年〕	A 体づくり運動	
	B 器械運動	
	C 陸上競技	
	D 水泳	
	E 球技	
	F 武道	
	G ダンス	
	H 体育理論 (1) 運動やスポーツの多様性 <第1学年> (2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 <第2学年>	
体育分野 〔第3学年〕	A 体づくり運動	
	B 器械運動	
	C 陸上競技	
	D 水泳	
	E 球技	
	F 武道	
	G ダンス	
	H 体育理論 (1) 文化としてのスポーツの意義	
保健分野	(1) 健康な生活と疾病の予防 <第1, 2, 3学年>	
	(2) 心身の機能の発達と心の健康 <第1学年>	
	(3) 傷害の防止 <第2学年>	
	(4) 健康と環境 <第3学年>	

#### 参考

平成29年3月告示 中学習指導要領 (文部科学省)



Check!

平成29年7月 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説保健体育編 (文部科学省)

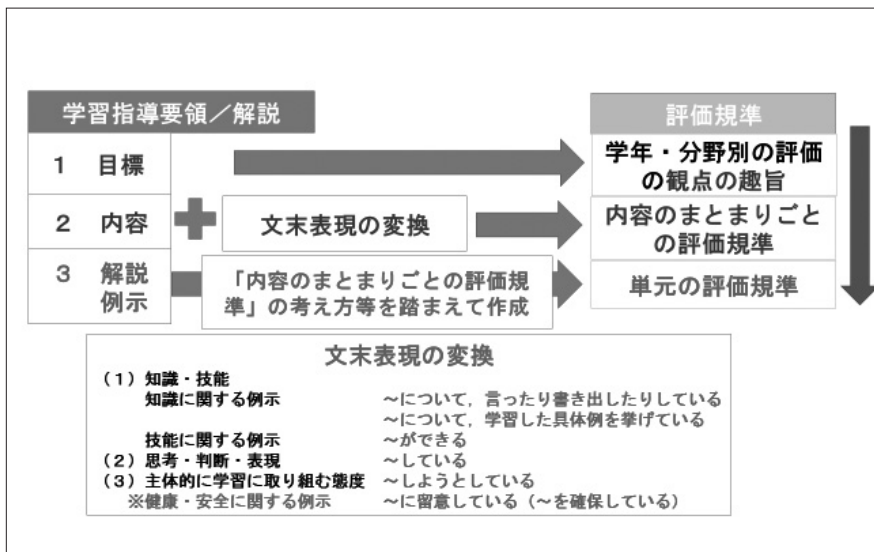
令和元年6月 「学習評価の在り方ハンドブック」(国立教育政策研究所)

令和2年3月 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』(国立教育政策研究所)

令和3年3月 「埼玉県中学校教育課程指導・評価資料」(埼玉県教育委員会)

※ その他、関連する通知等も参考にする。(改善等通知等)

「学習指導要領」及び解説と「観点の趣旨」及び「評価規準」との関係



「内容のまとまりごとの評価規準」

- ・「内容のまとまり」と評価の観点との関係を構造的に理解するために全教科共通で作成されるもの。
- ・学習指導や学習評価を行う際、学習指導要領の内容から逸脱しないように作成する。
- ・学習指導要領の「2 内容」の文末を「～すること」から「～している」と変換する。（生徒に資質・能力が育成された状態を表す。）

計画作成の手順

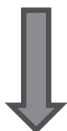
(1) 単元の目標の作成



(2) 指導事項の検討・配置



(3) 全ての「単元の評価規準」の作成



(4) 当該単元における「単元の評価規準」の設定



(5) 「指導と評価の計画」の作成



授業の実施



観点ごとに総括する  
(学習評価)

- ・学習指導要領本文の「2 内容」や学習指導要領解説から、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力について、「何ができるようになるか」という生徒が変容した姿を箇条書きで示す。
- ・文末は「～することができるようにする」と表記する。

- ・単元の目標の達成に向けて、指導事項を検討する。
- ・生徒の実態等を踏まえて修正し、改善を図る。

- ・学習指導要領解説保健体育編の内容に示されている「例示」の文末を変えて作成する。
- ・知識：「～について、言ったり書き出したりしている。」  
「～について、学習した具体例を挙げている。」
- ・技能：「～ができる。」
- ・思考・判断・表現：「～している。」
- ・主体的に学習に取り組む態度：「～しようとしている。」  
※健康・安全に関する内容については、「～している。」

- ・「内容のまとまりごと」に育成する資質・能力のバランスを検討した上で、指導事項を配置し、(3)全ての「単元の評価規準」から選択するなどして設定する。

- ・生徒の発達の段階を踏まえ、(2)で作成した指導事項と評価計画を重ね合わせて「指導と評価の計画」を作成する。  
(第1学年及び第2学年の目標や内容がまとめて示されていることを考慮する。)

「単元の評価規準」の考え方

- ・これまで、「単元の評価規準」を踏まえて「学習活動に即した評価規準」を作成してきた。
- ・今回、学習指導要領解説の例示を基に作成した全ての「単元の評価規準」から、当該単元における評価規準を選択したり、実際の授業にあわせて、より具体的に作成したりするものとした。
- ・「単元の評価規準」と「学習活動に即した評価規準」は同じ性質をもつものと考えられるため、今後「学習活動に即した評価規準」という言葉は使用しない。

手順に基づき、「(4) 当該単元における『単元の評価規準』の設定」までの参考例を次頁に示す。



参考例 1： 体育分野【第 1 学年及び第 2 学年】 C 陸上競技（長距離走）

1 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の<u>特性や成り立ち</u>、<u>技術の名称や行い方</u>、<u>その運動に関連して高まる体力</u>などについて理解している。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせることができる。</li> <li>長距離走では、<u>ペースを守って走ることができる。</u></li> <li>ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。</li> <li>走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶことができる。</li> <li>走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</u></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆POINT☆</p> <p>~~~~~ … 1 学年の目標として設定</p> <p>_____ … 2 学年の目標として設定</p> <p>_____ … 共通の目標として設定</p> <p>※それぞれ指導する内容に基づき、単元の目標へ反映</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技に<u>積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</u>ことなどをしたり、<u>健康・安全に気を配ったり</u>している。</li> </ul>

参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

配慮事項（例）

- ① 全ての学年で全員が長距離走を履修
- ② 各学年 8 時間取り扱う
- ③ 前学年までの学習状況（第 2 学年）

その他配慮すべき事項

- ・ 校区内小学校の状況
- ・ 学校行事
- ・ 地域の状況 等

☆POINT☆

- ・ 文末は全て「～することができるようにする」と表記
- ・ 資質・能力の三つの柱で表記

単元の目標【第 1 学年】

- ・ 長距離走の特性やその運動に関連して高まる体力などについて理解するとともに、ペースを守って走ることができるようにする。 <知識及び技能>
- ・ 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 <思考力、判断力、表現力等>
- ・ 長距離走に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすることなどをしたり、健康・安全に気を配ったりできるようにする。 <学びに向かう力、人間性>

単元の目標【第 2 学年】

- ・ 長距離走の成り立ちや技術の名称や行い方などについて理解するとともに、ペースを守って走ることができるようにする。 <知識及び技能>
- ・ 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 <思考力、判断力、表現力等>
- ・ 長距離走に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配ったりできるようにする。 <学びに向かう力、人間性>

## 2 全ての単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>陸上競技は、古代ギリシアのオリンピック競技やオリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>陸上競技は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</li> <li>提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。</li> <li>練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</li> <li>学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。</li> <li>用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。</li> <li>健康・安全に留意している。</li> </ul>
<p>○技能</p> <p><b>ア 短距離走・リレー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。</li> <li>自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。</li> <li>リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせるができる。</li> </ul> <p><b>イ 長距離走</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>腕に余分な力を入れないで、リラックスして走ることができる。</li> <li>自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。</li> <li>ペースを一定にして走ることができる。</li> </ul>	<p><b>ウ ハードル走</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すことができる。</li> <li>抜き脚の膝を折りたたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すことができる。</li> <li>インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ることができる。</li> </ul> <p><b>エ 走り幅跳び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己に適した距離、又は歩数の助走をすることができる。</li> <li>踏切線に足を合わせて踏み切ることができる。</li> <li>かがみ跳びなどの空間動作からの流れの中で着地することができる。</li> </ul>	<p><b>オ 走り高跳び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。</li> <li>跳躍の頂点とバーの位置が合うように、自己に合った踏切位置で踏み切ることができる。</li> <li>脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作で跳ぶことができる。</li> </ul>

### 3 当該単元における単元の評価規準（例）

#### 【第1学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①長距離走は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりにしている。 ②長距離走は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ③腕に余分な力を入れずに、リラックスして走ることができる。 ④ペースを一定にして走ることができる。	①提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 ②練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ③学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。	①長距離走の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ③健康・安全に留意している。

#### 【第2学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①長距離走は、古代ギリシアのオリンピック競技やオリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることについて、言ったり書き出したりにしている。 ②長距離走の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ③自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。 ④ペースを一定にして走ることができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	①長距離走の学習に健康・安全に留意しながら積極的に取り組もうとしている。 ②用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             例示を組み合わせることも考えられる。           </div>

※ 太字は、2学年共通で設定する評価規準

### 4 指導計画作成に関する【よくある質問Q & A】

Q 1 「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導案に記載するのでしょうか。

A 1 「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導や評価を行う際、学習指導要領の内容から逸脱しないように作成するものであり、学習指導案に直接記載するものではありません。しかし、「単元の目標」を設定する際の柱となりますので各学校で作成してください。

Q 2 「単元の目標」は、第1学年と第2学年で同じ記載になってもよいのでしょうか。

A 2 第1学年と第2学年は、同じ「内容のまとめり」です。従って、基本的には、同じ記載となりますが、「単元の目標」に設定する項目について指導し、「単元の評価規準」を作成してください。

Q 3 第1学年でしか実施しない単元があります。例示の全てを評価規準に入れるのでしょうか。

A 3 学校の実態に応じて、内容のまとめりを2年間かけて指導する単元や、どちらかの学年で指導する単元、または、種目を変えて1年間に複数回指導する単元（球技や陸上など）があります。評価規準の設定に当たっては、6ページに示すように例示にはどの内容にも共通する項目がありますので、一つの単元のみで考えるのではなく、当該単元で効果的に見取れる評価規準を設定し、バランスよく配置することが大切です。（中学学習指導要領解説 P42参照）

参考例 2： 体育分野【第3学年】C 陸上競技（長距離走）

1 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などについて理解している。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短距離走・リレーでは，中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めることができる。</li> <li>・長距離走では，自己に適したペースを維持して走ることができる。</li> <li>・ハードル走では，スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。</li> <li>・走り幅跳びでは，スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。</li> <li>・走り高跳びでは，リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きなどの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技に自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする事，自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり，健康・安全を確保したりしている。</li> </ul>

参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

配慮事項（例）

- ① 全ての学年で長距離走を実施
- ② 各学年8時間取り扱う
- ③ 前学年までの学習状況

その他配慮すべき事項

- ・校区内小学校の状況
- ・学校行事
- ・地域の状況 等

単元の目標

- ・ 長距離走の技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などについて理解するとともに，自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 <知識及び技能>
- ・ 動きなどの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 <思考力，判断力，表現力等>
- ・ 長距離走に自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする事，自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり，健康・安全を確保したりできるようにする。 <学びに向かう力，人間性>



## 2 全ての単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></li> <li>技術と関連させた運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></li> <li>自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に<u>伝えている。</u></li> <li>自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを<u>伝えている。</u></li> <li>選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を<u>選んでいる。</u></li> <li>健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について<u>振り返っている。</u></li> <li>ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を<u>振り返っている。</u></li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに陸上競技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</li> <li>陸上競技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の学習に自主的に取り組もうと<u>している。</u></li> <li>勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとして<u>いる。</u></li> <li>仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとして<u>いる。</u></li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとして<u>いる。</u></li> <li>健康・安全を確保して<u>いる。</u></li> </ul>
<p>○技能</p> <p><b>ア 短距離走・リレー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートダッシュでは地面を力強くキックして、徐々に上体を起こしていき加速することが<u>できる。</u></li> <li>後半でスピードが著しく低下しないよう、力みのないリズムな動きで走ることが<u>できる。</u></li> <li>リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加速して、スピードを十分に高めることが<u>できる。</u></li> </ul> <p><b>イ 長距離走</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ることが<u>できる。</u></li> <li>呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることが<u>できる。</u></li> <li>自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることが<u>できる。</u></li> </ul>	<p><b>ウ ハードル走</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことが<u>できる。</u></li> <li>遠くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越すことが<u>できる。</u></li> <li>インターバルでは、3又は5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることが<u>できる。</u></li> </ul> <p><b>エ 走り幅跳び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>踏み切り前3～4歩からリズムアップして踏み切りに移ることが<u>できる。</u></li> <li>踏み切りでは上体を起こして、地面を踏みつけるようにキックし、振り上げ脚を素早く引き上げることが<u>できる。</u></li> <li>かがみ跳びやそり跳びなどの空間動作からの流れの中で、脚を前に投げ出す着地動作をとることが<u>できる。</u></li> </ul>	<p><b>オ 走り高跳び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムカルな助走から真上に伸び上がるように踏み切り、はさみ跳びや背面跳びなどの空間動作で跳ぶことが<u>できる。</u></li> <li>背面跳びでは踏み切り前の3～5歩で弧を描くように走り、体を内側に倒す姿勢を取るようにして踏み切りに移ることが<u>できる。</u></li> </ul>

### 3 当該単元における単元の評価規準（例）

#### 【第3学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①長距離走の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ②自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ③リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ることができる。 ④呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることができる。 ⑤自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	①自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ②健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ③長距離走の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	①長距離走の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③健康・安全を確保している。

### 4 指導計画作成に関する【よくある質問Q & A】

Q 1 評価規準の文末表記について、配慮することはありますか。

A 1 8 ページで示したように、基本的には学習指導要領解説の例示の文末を変えて作成します。  
 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準については、意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応する場合は「～しようとしている。」とし、健康・安全の例示に対応する場合は、意欲をもつことにとどまらず実践することが求められるため、「～している。」と表記してください。

Q 2 3 年生は最終学年ですが、選ばなかった評価規準は、評価しないのでしょうか。

A 2 評価規準の設定に当たっては、6 ページに示すように、例示にはどの内容にも共通する項目がありますので、一つの単元のみで考えるのではなく、当該単元で効果的に見取れる評価規準を設定し、バランスよく配置することが大切です。(中学学習指導要領解説 P42 参照)  
 当該単元で選択しない評価規準は、より効果的に見取ることができる他の単元で指導し、評価してください。

Q 3 体づくり運動や体育理論は、技能の評価規準を設定しなくてよいのでしょうか。

A 3 体づくり運動の「体ほぐしの運動」は、技能の習得・向上をねらいとするものでないこと、第3学年の「実生活に生かす運動の計画」は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、「技能」の評価規準は設定しません。ただし、「運動」に関する内容については、主に「思考・判断・表現」に整理します。  
 また、体育理論についても、「技能」に係る評価の対象がないことから、「技能」の評価規準は設定しません。  
 なお、観点の表記については、「知識・技能」が一つの観点になっていることから、「知識・技能」と表記することになりますので注意してください。

1 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。</li> <li>・交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解している。</li> <li>・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解している。</li> <li>・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。</li> </ul>

参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

配慮事項（例）

- ① 応急手当は4時間取り扱う
- ② 養護教諭等との連携が可能
- ③ 大型モニター、学習用PC有り

その他配慮すべき事項

- ・校区内小学校の状況
- ・学校行事
- ・地域の状況 等

単元の目標

- ・ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解するとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。 〈知識及び技能〉
- ・ 応急手当について、危険の予測やその回避の方法を考えるとともに、それらを表現することができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 応急手当についての学習に自主的に取り組むことができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

## 2 全ての単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></li> <li>・交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であること、また、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、安全に行動することが必要であることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></li> <li>・自然災害による傷害は、家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となつて生じることや、二次災害によつても生じること、また、自然災害による傷害の防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくことや、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></li> <li>・傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できること、また、応急手当の方法や心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当について、<u>言ったり書き出したりしている。</u></li> <li>・胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用などの心肺蘇生法ができる。</li> <li>・包帯法や止血法としての直接圧迫法などの応急手当ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷害の防止における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</li> <li>・交通事故、自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。</li> <li>・傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見出ししている。</li> <li>・傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傷害の防止についての学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>



### 3 当該単元における単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や幹部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</p> <p>②心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>	<p>①傷害の防止における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>②傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見い出している。</p>	<p>①傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

### 4 指導計画作成に関する【よくある質問Q & A】

Q 1 評価規準を作成したら「知識・技能」がとてども多くなってしまいました。

A 1 保健分野の「知識及び技能」に関する指導内容は毎時間変わってくるため、「知識・技能」の評価規準が多くなるのが考えられます。一方、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」については、単元を通して見取ることになるので、評価規準も少なくなります。実際に保健分野の指導と評価を行う際には、「知識・技能」を中心に評価するわけではなく、バランスよく指導し、評価していくことを心掛けてください。

Q 2 「主体的に学習に取り組む態度」の「単元の評価規準」はどのように作成すればよいでしょうか。

A 2 保健分野については、「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、保健分野の目標（3）や観点の趣旨、内容のまとまりごとの評価規準を参考に作成してください。

#### 【最後に】

Q 3 「内容のまとまりごとの評価規準」や「単元の評価規準」を全て作成する必要はありますか。

A 3 評価規準の作成は、学習評価の構造を理解するとともに学習評価の改善を図る上で大変重要です。また、埼玉県が目指す体育授業である「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」の実践を通して、教科「保健体育」の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現するための資質・能力」の育成を図る上で、指導の方向性を示す羅針盤となりますので、各学校において作成をお願いします。

なお、参考資料として「[県立総合教育センター 学校体育コミュニケーションサイト](https://ecsweb.center.spec.ed.jp/J001/)」に、全ての「内容のまとまりごとの評価規準（例）」（参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター）と全ての「単元の評価規準（例）」を示しましたので活用してください。

県立総合教育センター 学校体育コミュニケーションサイト  
URL : <https://ecsweb.center.spec.ed.jp/J001/>

